

令和6年度  
事業計画書



社会福祉法人 神奈川やすらぎ会

## 【 目 次 】

令和5年度 運営方針	・・・・・・・・	2
セクション		
特別養護老人ホーム 森の里	・・・・・・・・	3
通所介護・通常規模型 森の里	・・・・・・・・	4
管理・営繕 部門	・・・・・・・・	5
特別養護老人ホーム 第二森の里	・・・・・・・・	6, 7
居宅介護支援 森の里	・・・・・・・・	8
小鮎・緑ヶ丘 地域包括支援センター	・・・・・・・・	9, 10
みらくる保育園	・・・・・・・・	11, 12
総務 部門	・・・・・・・・	13, 14
厨房 部門	・・・・・・・・	15
委員会		
研修委員会（森の里）	・・・・・・・・	16
研修委員会（第二森の里）	・・・・・・・・	17, 18
防災委員会（森の里）	・・・・・・・・	19
防災委員会（第二森の里）	・・・・・・・・	20
衛生対策委員会（森の里）	・・・・・・・・	21
衛生対策委員会（第二森の里）	・・・・・・・・	22
人権擁護委員会（森の里）	・・・・・・・・	23
人権擁護委員会（第二森の里）	・・・・・・・・	24
組 織 図		

気づき・感じる

昨年度は「考動」、一昨年度は「あるべき姿の追求」をテーマに掲げ、運営を行って参りました。

マネジメントの品質を高めようという概念である Plan (計画)、Do (実行)、Check (測定・評価)、Action (対策・改善) の仮説・検証型プロセスを循環させ、いわゆる PDCA サイクルを回すためには、その前に気づく・感じるが必要です。社会的に必要とされる組織は、社会的存在意義が絶対的に必要です。私たちは社会に何を求められ、存在しているのでしょうか。

以前から言っているように、外部環境の変化に対応し続ける組織であり続けることが重要です。

昨日と同じ今日を過ごしても異なる明日を求めることは、「愚か者の結論」と言われています。

あるべき姿や求められている姿は、とても速いスピードで変化しています。それに気づく・感じる感性を養い、継続的な強い組織を構築していきましょう。

そのためには、スタッフ一人ひとりの人間力を強化することが求められます。人間力の強化には、一人ひとりの人生が豊かであることが必要です。

令和6年度も福利厚生と研修に力を入れていきます。それに加えて、公休有給100%の消化と残業なしを継続していきたいと思えます。

その時間を有効活用し、自分自身の時間を使って読書や趣味、副業に取り組み、人間力を強化してください。

介護や保育には正解がありません。お互いの持つ人間力を活かしながら、より良い答えを探し続けるためには、チームがお互いを尊重し、「自分の意見(考え方)を述べる・他人の意見(考え方)を聞く」ことが重要です。

そのためには、常日頃からお互いに良好な人間関係を築いていく必要があります。

令和6年度は、一人ひとりがアンテナを高く保ち、「気づき・感じる」ことでより良い組織を作っていきます。

### 1、年度目標

- ①ご利用者一人ひとりの日常生活が、その人らしく笑顔で満足していただけるように、職員全員が同じ思いで対応にあたるように努める。
- ②介護職としての専門的なスキルアップだけでなく、特養全体で資質の向上を目指す。

### 2、概要

- ・ご利用者の日々の生活での小さな言葉にも耳を傾け、やりたいと思うことができる様ご家族の協力も頂きながら実現を目指す。
- ・施設内外の研修を通し、専門性の向上に努め、日々自己研鑽に励む。

#### 【相談員】

- ・ご利用者に、安心して生活して頂けるよう、関係職員と連携し、より質の高いサービスを提供し、ご家族の希望・要望に迅速に対応する。

#### 【医務】

- ・ご利用者の思いを汲み取り現在のADL維持・向上を普段の生活から援助できる方法に取り組み、満足度の高い生活の場の提供に努める。
- ・多種職と協働しながら看取り看護・介護のケアの質の向上に努める。
- ・嘱託医と連携し施設での感染症予防・拡大防止のための発信、研修に努め理解、実施できるように、また衛生環境を整えていく。
- ・褥瘡予防に向けて取り組み、ケアの質の向上を図る。

#### 【介護支援専門員】

- ・自立支援に向けて一丸となるよう情報を共有し、関係職種との連携に基づいたケアプランを作り、より良いサービス提供へと繋げる。

#### 【短期入所】

### 3、年間行事計画

4月	お花見	10月	
5月		11月	
6月		12月	
7月		1月	祝い膳
8月		2月	節分
9月	ふれあい祭り	3月	

### 1、年度目標

在宅生活支援に結び付くサービスを提供するとともに、多様に変化していく介護ニーズに柔軟に対応できるようITやIoTを活用しながらサービス向上に努める

### 2、概要

- ① 個別機能訓練、レクリエーション、季節ごとの行事等の活動内容の充実を図り、個々のQOL向上につなげるサービス提供ができるよう努める。
- ② ITやIoTを活用し、業務改善を行いながら、提供するサービスの質を高めるように努める。
- ③ ご家族やケアマネジャー等との交流を増やしていき、求められるサービスを明確にしながサービス内容の見直しと充実を図り支援内容の質を高める。
- ④ 外部との交流以外にもSNS等を上手く活用し、新たなターゲットへアプローチしながら、新規契約に繋がるように情報発信を積極的に行う。
- ⑤ 感染症予防を徹底し、ご利用者が楽しみを持ち安心して安全に過ごせるよう努める。

### 3、年間行事計画

4月	お花見	10月	
5月		11月	
6月		12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕飾り	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	節分
9月		3月	ひな祭り

### 4、研修計画

研修委員会に基づき施設内研修

外部研修（機能訓練、レクリエーション、認知症等）

### 5、その他

個別でのお誕生会

書道クラブ

## 1、年度目標

昨年度より病院や診療所への送迎が増えた為、その待機時間等の使い方を見直し無駄のない動きが出来るようそれぞれが考え行動出来るようにする。

## 2、概要

### ① 車両管理と運用・送迎部門

- 1) 車両の整備・点検・清掃と、ご利用者にやさしい運転で事故ゼロの達成や快適な送迎が出来るように努める。
- 2) ご利用者や、ご家族からの意見等の情報共有に努める。
- 3) 新規のご利用者の自宅近隣の状況等を事前に確認し、効率良い送迎に努める。
- 4) ご利用者やご家族への言葉使いや挨拶・態度等に気をつけ、明るく接し、より良い送迎に努める。
- 5) 車椅子使用時における装着の仕方等を再確認し、職員全員で統一し、安全に努める。
- 6) 出勤時、退勤時における全員のアルコールチェッカーによる確認に努める。

### ② 設備・営繕部門

- 1) 森の里・第二森の里・みらくる保育園・グリーンヒルズの環境整備・建物の定期的なメンテナンスの実施。
- 2) 備品の点検や車椅子等の器具のメンテナンスの実施。
- 3) 建物や器具等のメンテナンスの仕方や知識の共有・伝達。
- 4) 建物の老朽箇所や破損箇所の修繕・リフォーム等の実施。

## 3、研修計画

- ・対面の研修がほとんどなくPCやスマートホンでの研修の為、自分で観れない人も居るので何人かで集まって観る時間を作る等し、全ての研修に参加出来るようにする。

## 1、年度目標

- ・日々変化するご利用者の心身の状態に対し、職員自らが「気づく」ことをご利用者が安心して自分らしい生活が送られるように努める。
- ・外部研修や内部研修に力を入れ、職員全体の介護力向上に努める。
- ・終末期に向けてその人らしさを大切にし、ご利用者・ご家族の希望に出来る限り答えていながらコミュニケーションを密に取り安心した日々を送って頂けるよう寄り添ったケアをしていく。それにより得た情報や要望は各セクションで共有し個々に合わせたケアを提供する。
- ・ご利用者のニーズに合わせたよりよいサービス提供を行い満足・充実した生活を送れるよう努める。
- ・職員のスキルアップを目指しプロとしての専門性を高める。

## 2、概要

### 【1階フロア】

- ・問題や課題に対して立ち止まらず、職員間で意見交換を積極的に行い取り組み、評価し改善を図るPDCAの意識を作る。
- ・毎月のレクリエーションや余暇を継続する。
- ・ご家族との繋がりを文章や言葉だけでなく記録や映像等様々な方法で形にしていこう努める。
- ・介護技術や福祉用具を使い職員での腰痛予防に努める。

### 【2階フロア】

- ・ご利用者一人ひとりに合わせたケアを提供できるよう努める。
- ・他セクションと連携し情報共の共有に努める。
- ・引き続き感染予防への意識を持ち感染予防に努める。

### 【3階フロア】

- ・ご利用者、ご家族の不安や想いが速やかに改善できるように、日々のコミュニケーションを大切する。
- ・排泄パターンを把握し、担当職員が中心となり医務と連携を取りながら下剤の調整、見直しに努める。
- ・ご利用者、職員共に日々笑顔で笑い声のあるフロアを目指す。
- ・ご利用者一人ひとりが安心して健康的な生活が送れるよう、環境保全に努める。

### 【相談員】

- ・外部機関と連携、ご利用者の早期面談、今まで以上に入所の窓口を広げ、入退所(居)委員会にて情報の共有をし、スムーズな入所に繋げる。

- ・看取り期におけるご利用者・ご家族と十分に話し合いを行い、関係職員と連携し支援に努める。また、振り返りを行い、更なる支援に繋げる。

#### 【介護支援専門員】

- ・ご利用者のニーズや家族の想いを職員間で共有・連携してケアプランに反映することでより良い施設での生活を目指す。
- ・アセスメント等により的確な情報収集を行い、自立支援に向けたケアマネジメントに努める。

#### 【医務】

- ・普段から感染対策に関する知識を持ち、菌やウイルスを持ち込まない・持ち出さない・拡げないような環境作りを行う。
- ・感染症予防、発生時の対応をマニュアルに沿って確実に対応していく。
- ・多職種と協働してリスク管理を行うと共に、ご利用者が安心して生活できる環境を提供する。
- ・ご利用者やご家族が望む最期を迎えることができるよう、後悔の無い納得のいく人生を全うできるよう、ご家族も含めて多職種と想いを共有し看取りケアを行う。

#### 【短期入所】

- ・稼働率向上の為、求められているニーズは何かを考え常に成長する施設を目指す。
- ・コロナでの経験を活かし緊急時に即対応できるように連絡体制を整える。

#### 【洗濯・清掃】

- ・衣類の紛失や洗濯方法の間違えがないよう確認の徹底をする。
- ・快適な生活の提供、環境整備のメンテナンス補修、点検に努める。

### 3、年間行事計画 ※随時 保育園とのふれあい、外出フロアでのレクリエーション

4月	お花見	10月	運動会
5月		11月	収穫祭
6月		12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	ふれあい祭り	3月	ひな祭り・お花見

### 4、研修計画

外部研修 随時

内部研修 新人研修

食中毒・人権（事故・虐待）・ターミナルケア・感染症・介護技術・他随時

### 5、その他

- ・オムツゼロの継続を行い、個々にあった排泄パターンの把握、下剤の見直し。
- ・日々の感染症対策を徹底して、ご利用者が安心して生活できるように努める。



## 1、年度目標

医療や介護を必要とする高齢者や障害者が、住み慣れた地域で自分らしく、生き生きと暮らしていける仕組み「地域包括支援システム」の一員として、多様なニーズに対応できるよう、地域における医療、行政、介護の関係機関と連携しながら、深化、推進していく。

## 2、概要

- ① 在宅での生活を支える為、利用者の入退院における医療と介護の連携や必要に応じて他機関等と連携し、生活全体のマネジメントを行い本人の思いに寄り添った支援を行う。感染対策は、引き続き行っていく。
- ② 介護保険制度改正に伴う変更、特定事業所としての要件を各々が理解し、中重度や支援困難ケースは積極的に対応し質の高いケアマネジメントを行う。また、他居宅介護支援事業所との事例検討を行うなど、地域のケアマネジメント機能を向上させる取り組みを行う。
- ③ 各種研修会等に参加して知識や技術のスキルアップを図り、ケアプランが効果的に機能出来るようにする。オンラインでの会議や研修も積極的に参加し、事業所内でも情報共有や支援に関する相談を行い、資質向上に努める。
- ④ 新しい介護ソフトの機能を理解し、事務処理時間の短縮、ペーパーレスを進め効率化を図る。

## 3、年間行事計画

- ・年5回 事例検討会、他居宅事業所との共同事例検討会
- ・年に1回（9月）新規ご利用者へアンケート
- ・週1回ケース会議 月1回ケアマネ会議 朝のミーティング

## 4、研修計画

- ・施設内研修（事故防止・ヒヤリハット、ターミナル、人権擁護、食中毒、感染症）
- ・ケアマネ部会研修 ・厚木医療福祉連絡会 ・厚愛地区高齢協研修
- ・保健福祉事務所研修 ・県社会福祉協議会研修 ・県介護支援専門員協会研修

### 1、年度目標

高齢者だけでなく、障がい者や子供も含めた全ての住民を対象とし、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムにおける地域の中核機関として、地域全体で支える体制を構築し、生活上の困りごとを総合的に支援するよう努めていく。

### 2、概要

- ① 地域包括支援ネットワークを構築する為、地域住民からの相談には丁寧に対応し、必要に応じて  
関係機関と連携し、切れ目のない対応を心がける。
- ② 居場所づくり、生きがいをづくりを包含した幅広い介護予防の推進、高齢者や障がい者を含め多様な担い手が参画する支え合いの体制づくりを行う。
- ③ 認知症及び独居世帯（ひとり暮らし・老老介護・ダブルケア等）の高齢者等の生活状況の確認。
- ⑤ 個別課題の解決、地域課題の把握、ケアマネジメント支援を行い、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるよう地域全体で支援していく。
- ⑥ 個別相談を受ける体制の確保、自立支援型地域ケア会議への参加、各種研修に積極的に参加し、職員の資質向上を図る。

### 3、年間行事計画

4月	みな来るラジオ体操、包括便り春号発行
5月	どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
6月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、みな来るラジオ体操
7月	みな来るラジオ体操、包括便り夏号発行、レコードブック厚木林運営推進会議 キャンタス運営推進会議、フレイル予防教室
8月	みな来るラジオ体操、フレイル予防教室
9月	緑いきいき交流会、どんぐり庵推進会議、みな来るラジオ体操
10月	緑ヶ丘敬老事業、小鮎お楽しみ会、みな来るラジオ体操、包括便り秋号発行、 なごみ白山運営推進会議
11月	緑いきいきサロン、公民館祭り、みな来るラジオ体操
12月	みな来るラジオ体操、レコードブック厚木林運営推進会議
1月	緑いきいき交流会、みな来るラジオ体操、包括便り冬号発行
2月	緑いきいきサロン、ケアマネ交流会、キャンタス運営推進会議 みな来るラジオ体操

3月	緑いきいき交流会、どんぐり庵推進会議なごみ白山運営推進会議 小鮎公民館祭り、みな来るラジオ体操
----	----------------------------------------------------

※第1・3木曜日：第二森の里体操教室

第2火曜日：緑ヶ丘介護家族健康相談

第2水曜日：緑ヶ丘民児協定例会

第2木曜日：小鮎民児協定例会・認知症キャラバン講座

随時：小鮎介護家族健康相談

随時：みな来るラジオ体操 みな来るカフェ

随時：第1第2層協議体

随時・各地域ミニデイ

#### 4、研修計画

地域包括担当者会議 市・県地域包括従事者研修

#### 5、所属委員会

厚木市第1層協議体委員・・・岩崎 浩介

厚木市第2層協議体委員・・・中原 亜矢 神名 貴子

県・市伴奏支援事業委員・・・近澤 嘉子 成田 裕世

厚木市認知症地域支援推進員・・・成田 裕世

法人 研修委員・・・田島 佳枝

厚木市研修・啓発・広報連絡会委員・・・岩崎 浩介

緑ヶ丘地区地域福祉推進委員・・・岩崎 浩介

小鮎地区地域福祉推進委員・・・岩崎 浩介

## 1、年度目標

- ① 全保育士の保育の質向上を目指すと共に、新規に保育士を採用し継続して働くことのできる職場づくりに力を入れる。それに伴い、園児入所率を100%にする。
- ② 保育士が体育指導を行い子どもたちの体力向上に向けて取り組む。分からない事は指導者に聞き、自分の保育力にする。
- ③ 子ども達の年齢に合わせた良い絵本の提供が出来るようにする。本の取り扱い方を子どもたちに浸透させつつ、保育士は年齢に合った絵本の提供が出来るように研修などで知識を増やす。
- ④ 子ども主体の保育とは何かを職員全体で考え、毎日の保育を変化させていく。業務改善に力を入れ、事務作業の削減を実現することで保育士の事務作業の時間や子どもたちの情報共有の時間を作り出す。

## 2、概要

- ① 園内研修を月に1回全職員向けに行うことで、全職員の保育の質の向上を図る。今年度は、実際の保育を見合う等研修の内容検討をする。  
職員採用については、全職員で取り組みまた、中堅保育士はキャリアアップ研修を受講する等一人ひとりの保育士の力を上げていく。
- ② 昨年度は、乳児クラスの担任が意識を持って取り組むことが出来なかったため、今年度は乳児クラスの職員も体育指導に関わりを持つ。  
幼児クラスは、体育指導を週1回取り入れながら、担任が体育指導を行っていく。行う中で疑問点などを指導者に聞き、自分の力となるようにする。
- ③ 子どもたちの絵本の扱いは良くなっているが、研修を受けたままになり園としてどうしていくかが、保育士個人任せになっているので情報共有していく。
- ④ 現在は、保育士一人ひとりの感覚で子ども主体の保育をしているので、迷いを持っている職員もいる。園全体として、どうしたら子ども主体の保育になるのかを考える機会を持ち、日々の生活に反映にしていけるようにする。
- ⑤ 保育士一人ひとりが業務改善を自分の事として捉える。  
クラスの子どもの事だけでなく、全職員が全園児の担任のような気持ちで子ども達に接することで、子ども達の気持ちの変化を素早く察知できるようになる。

### 3、年間行事計画

4月	・ 始まりの会 ・ 春の遠足(4.5歳児) ・ 入園おめでとう会 ・ 内科健診	10月	・ 内科健診 ・ 運動会
5月	・ 子どもの日集会 ・ 懇談会(年間目標説明会) ・ 歯科検診 ・ 親睦遠足(3.4.5歳児)	11月	・ 歩け歩け遠足(3.4.5歳児) ・ 歯科検診 ・ 保育参観(0.1.2歳児) ・ 個人面談(全園児)
6月	・ 尿検査 ・ 不審者訓練	12月	・ 個人面談(全園児) ・ クリスマス集会 ・ 不審者訓練
7月	・ 七夕まつり集会 ・ プール始め	1月	・ 個人面談(全園児) ・ 交通安全教室(0~4歳児) ・ 新春おめでとう会
8月	・ 夏のおたのしみ会 ・ プール納め	2月	・ 豆まき集会 ・ 親子体幹デー ・ 交通安全教室(5歳児)
9月	・ 引き渡し訓練 ・ 不審者訓練	3月	・ ひな祭り集会 ・ お別れ遠足(3.4.5歳児) ・ お別れ会 ・ 卒園式

\*誕生会…誕生日に各クラスでお祝いをする。

\*毎月実施…身体測定、避難訓練

\*3ヶ月に1度実施…不審者訓練

\*森の里、第二森の里との交流は随時連絡を取り合っている。

### 4、研修計画

- ・ 年齢別発達
- ・ キャリアアップ
- ・ 子どもの発達講座
- ・ 絵本研修
- ・ 感染対策
- ・ 体幹運動
- ・ 保健講座(乳児)

## 1、年度目標

法人内外の状況を迅速に分析し、正確な情報収集をもとに適正な財務管理および労務管理を行う。

外部と法人とをつなぐ窓口である、という立場を再認識し責任と自覚をもって行動する。

## 2、概要

### 【総務事務全般】

- (1) 適正な会計処理を行い、月次毎に収支の流れを正確に把握する。
- (2) 制度改正や法改正等の情報を迅速に入手し職員に周知、発信する。
- (3) ペーパーレス化を推進し、資源の有効活用に努める。
- (4) 職員の心身の健康サポートに努め、定期健診結果有所見者の保健指導受診率を前年度比25%を目標とする。

### 【森の里総務事務全般】

- (1) 第二森の里総務と連携し、職員が日々の業務に専念できる環境を整え実行していく。
  - ①備品管理、出納管理、労務管理等チェックを徹底する。
- (2) ご利用者のよりよい生活環境づくりに協力する。
  - ①特養およびデイサービスのレクリエーション備品、資材の管理を行う。
  - ②パン移動売店等を通じ利用者のサポートを行う。

### 【請求事務全般】

- (1) 介護給付費及び利用者への請求を適切に行う。
- (2) 請求の際に細部まで確認を行うことにより、ミスを無くし適切な請求を行う。
- (3) 返戻などがあった際には原因をしっかりと精査し、対応を行う。
- (4) 請求完了後は会計ソフトへの入力、計算を適切に行う。

### 【備品購入管理】

- (1) 各セクションと連携し適切かつ円滑に備品管理を行う。
- (2) 発注業務、在庫管理の効率化、システム化を図る。
- (3) 感染症予防対策がスムーズに行えるよう備品の確認、補充等を確実にを行う。

#### 【外国人技能実習生担当】

- (1) 外国人技能実習生に係る情報の収集と発信を迅速に行い、メンタルヘルス及び生活面のより良い環境作りに協力する。
- (2) 介護技術面の更なるスキルアップを支援する。

#### 【助成金担当】

- (1) 令和6年度神奈川県キャリアアップ助成金(特に賃金規定等改定コース)の支給申請を適切に行う。
- (2) 令和6年度厚木市介護職員等人材育成支援事業補助金の申請を適切に行う。
- (3) 令和6年度神奈川県ICT導入補助金の申請を適切に行う。
- (4) 新規助成金案件の情報を的確に把握し、適宜申請を行う。
- (5) 各種表彰対象者の選定を適切に行う。
- (6) 業務継続計画(BCP)計画書の整備を行い、適切に研修及び訓練の計画を立て実施する。
- (7) ゴミサー(生ごみ処理機)の使用状況を調査し、厚木市へ報告する。

#### 【人財育成担当】

- (1) 各事業所の研修担当者との情報共有を行い、外部および内部研修をマネジメントする。
- (2) 資格取得希望者へ情報提供や研修会を行い、合格に向けて多方面からサポートする。
- (3) 各セクションの主任と業務の見直しを行いながら、適正な人員配置を行う。
- (4) 法人内のニーズを把握し、求人業務を迅速かつ適切に行う。

#### 【入退所(居)事務局】

- (1) 入所(居)希望者の正確な人数把握に努める。
- (2) 各種待機者調査報告書作成・提出を迅速かつ正確に行う。

### 3、年間行事計画

4月	決算資料作成
6月	理事会〔予算・事業報告〕、定時評議員会、職員健康診断(6/21, 6/27)
1月	職員健康診断(夜勤者)、法定調書・給与支払報告書作成・提出
2月	次年度予算資料作成
3月	理事会〔決算・事業計画〕

### 1、年度目標

- ・業務内容を見直し、一人ひとり責任を持って自ら行動していく。
- ・安全・安心な食事提供を目指していく。
- ・献立・食事量を見直し残菜を減らしていく。

### 2、概要

#### (特養)

- ・食事形態は、嚥下調整食に基づき、摂食嚥下機能に合った食形態に調整し、栄養士、調理師と連携をとりながら実施していく。
- ・年に1回嗜好調査を実施し、意向を出来る限り献立に反映し、喜ばれる食事作りに努める。
- ・栄養ケアカンファレンスを定期的で開催し、多職種で情報を共有し、個別の栄養ケア計画書を作成する。
- ・ミールラウンドを実施し、ご利用者の栄養状態、心身の状況及び嗜好を踏まえて食事作りに努める。

#### (保育園)

- ・アレルギー対策を徹底し、リクエストメニューを充実させ、食事レクに参加し保育士、園児と交流を深める。
- ・保育園の食事会議に参加し保育士と連携を取り、情報を共有していく。

### 3、年間行事食計画

4月	春の遠足(4～5歳)	10月	
5月	親睦遠足(3～5歳)	11月	収穫祭、歩け歩け遠足(3～5歳)
6月		12月	クリスマス会、年越し
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	ふれあいまつり	3月	ひなまつり、お別れ遠足(3～5歳)

### 4、研修計画

- ・嚥下食、栄養管理
- ・食中毒、感染症
- ・厚木市従事者研修会



## 研修委員会（森の里）

構成員 古座野布美子 佐藤健一 門倉千絵 本杉ひろ子

### 1、年度目標

- ①業務に必要な、知識・技術等を習得・向上できるよう研修計画体制を整備する。
- ②外部研修で学んだ知識を施設内で伝達研修を計画し、伝える・教える技術を習得する。
- ③Band を使用し、オンライン研修の実施、浸透化を目指す。

### 2、概要

- ①年間計画作成
- ②月毎に委員会開催
- ③研修不参加者には資料の閲覧行ない研修内容によってはレポート提出を実施。
- ④第二森の里と研修内容の共有をする。

### 3、年間行事計画 ※コロナの状況により随時変動あり

	森の里
4月	新任職員研修
5月	*医務研修、食中毒（月は暫定）
6月	人権擁護（虐待・拘束廃止）
7月	介護技術
8月	B C P 計画（感染・訓練演習）
9月	*食事介助（月は暫定）
10月	認知症
11月	感染症予防
12月	介護技術
1月	人権擁護（事故防止）
2月	人権擁護（虐待・拘束廃止）
3月	次年度委員への引継ぎ

### 4、研修計画

新任研修・医務研修・介護技術・外部研修・研修発表は各施設随時行い、外部講師（呼べる場合）・内部研修共に日程調整は研修日より2ヶ月前から行なう。

（人権擁護委員:事故防止,虐待・拘束廃止、医務:感染症予防・看取り）

新人職員・技能実習生に対し根拠を伝えられる指導者として中堅職員を育てていく。

## 研修委員会（第二森の里）

構成員 包括 田島佳枝 特養 鈴木裕 鈴木楓花 長谷川浩光 上原裕美子

### 1、年度目標

- ①「専門性」及び「職業倫理」の向上を目指し専門職としてのスキルアップを目指す。
- ②業務に必要な、知識・技術等を習得できるよう研修計画体制を整備し研修目的を明確化する。
- ③「現場で生きる」研修の実施。
- ④オンライン研修の浸透化及び実施を目指す。（Band を使用）
- ⑤外部研修の実施。

### 2、概要

- ①年間計画作成
- ②月毎に委員会開催
- ③研修時間は内容により設定（勤務時間内または時間外に行うものとする）
- ④森の里と第二森の里での合同研修においては合同にて会議を実施する。
- ⑤研修不参加者には資料の閲覧行ない研修内容によってはレポート提出を実施。
- ⑥オンライン研修の実施回数を増やし、各職員へのオンライン研修の浸透化。
- ⑦外部研修の実施

### 3、年間行事計画 ※外部研修は変動・変更あり

	外部研修	内部研修
4月		新任研修
5月		人権擁護（事故防止）
6月		衛生管理研修（食中毒・感染症）
7月		ハラスメント研修
8月		B C P 計画（感染・訓練演習）
9月		看取りケア研修
10月	国際福祉機器展	口腔ケア研修
11月		人権擁護（虐待・拘束廃止）
12月	かながわ高齢協 職員研修	衛生管理研修（食中毒・感染症）
1月		介護技術研修・認知症ケア
2月	あつぎ介護フォーラム	人権擁護（虐待・拘束廃止）
3月	かながわ高齢協 職員技術研修	人権擁護（事故防止）

#### 4、研修計画

新任研修・医務研修・介護技術・外部研修・研修発表は随時行い、外部講師（呼べる場合）・内部研修共に日程調整は研修日より2ヶ月前から行う。

オンライン研修可能な場合オンライン研修の浸透化を促す為、オンライン研修を行う。

（Bandを使用）

参加出来る外部研修には、参加者を選出し参加してもらい、レポートの提出をしてもらう。

（人権擁護委員：事故防止, 虐待・拘束廃止、医務：ターミナルケア、感染症予防）

## 防災委員会（森の里）

構成員 澤田由里子 古川沙織 篠崎あゆみ 白井成奈 橋本啓太 斎藤幸志

### 1、年度目標

- ・防災設備の点検、管理を行うことでご利用者が安心して生活できるための環境整備に取りくんでいく。
- ・有事に備えたご利用者、職員人命の安全確保、被害の軽減を図ることを目的とした、避難訓練の実施を行う。また、地域との連携が円滑にとれる体制を整えておく。

### 2、概要

- ・防災用具点検及び建物内外の安全パトロールを行うことで、安全性の確保や機能の保持など危険箇所等を把握する。
- ・地域との協力を心がけ、緊急避難受け入れの為に、備蓄・場所等の計画を持つ。
- ・有事の際、被害を最小限に止めるために、ボイラーの消し方や施設内の防災設備の把握をしっかりと行う。
- ・避難訓練を通して、職員全体の防災意識を高め、綿密な計画を立て、各セクションが連携を取りながら緊張感を持って取り組む。
- ・自然災害BCPの策定及びBCMの実施。

### 3、訓練計画

- 5月 土砂災害避難訓練
- 6月 消火訓練
- 7月 研修
- 8月 夜間想定火災避難訓練
- 10月 大規模地震想定避難訓練

### 4、その他点検・活動

- ・防災設備点検（毎月）
- ・施設内安全確認パトロール（年4回）
- ・備蓄倉庫物品点検・整理交換（3ヶ月毎）
- ・各セクション防災頭巾の虫干し
- ・救急セットの点検
- ・職員人員変更発生時、緊急連絡網の加筆、修正

## 防災委員会（第二森の里）

構成員 防火管理責任者 西迫哲（副）星野晃徳 塩川匠 根津由紀 白井ロサナ  
堀米理恵子

### 1、目的

職員の、火災・震災等の災害に対する危機意識を高めるとともに、災害に起因する人的・物的被害を最小限にとどめることを目的とする。

### 2、計画

- ① 法令に定められた訓練の実施
  - ・大規模地震対策特別措置法に基づく訓練(年に1回、計画・実施)
  - ・火災想定訓練(年に1回、計画・実施)
  - ・消火器使用消火訓練(年に1回、実施)
  - ・風水災害訓練(年1回、実施)
- ② 施設の防災計画の見直し
  - ・防災計画の作成
- ③ 水害想定訓練
  - ・水害対策マニュアルの作成
  - ・避難訓練の実施(年に1回、実施)
- ④ その他
  - ・備蓄物品の整理交換
  - ・神奈川県総合防災センター訪問訓練：年度内5回(奇数月開催、実施予定)

### 3、年間計画 実施予定

- ・火災を想定した避難訓練（通報訓練・消化訓練）
- ・地震・夜間想定での避難訓練（消化訓練）
- ・防災センター 体験・訓練
- ・水害対策の避難訓練

### 4、その他

緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施  
毎月 防火設備点検  
備蓄庫点検実施  
毎月1回 定例会議実施  
消防計画の訂正・提出（消防署へ）

### 構成委員

西迫哲 小林秀也 門倉千絵 児玉涼輔 高橋晴香 阪口百恵 志賀優美 橋本啓太  
三橋亮太 神崎りえ 松本純子 田嶋亜希子 ファムティミンカイン

### 1、年間目標

- ・感染症や食中毒などの予防、拡大の防止のための対策をする。
- ・新型コロナウイルス感染症BCPの策定・研修実施・評価。

### 2、年間計画

- ・3ヶ月に1回以上定例会議を開催し、その結果について、職員に周知徹底を図る。
- ・定期的な感染症対策研修の企画、実施を行う。
- ・新規採用職員への感染症対策研修を行う。
- ・新型コロナウイルス等発生時における業務継続計画（BCP）に沿って実務研修を行う。
- ・施設内環境の点検を行う。
- ・機関からの感染症における通達が来た場合、すぐに緊急会議を開く。

### 3、年間計画

4月	食中毒・感染症の研修企画 施設内環境整備
7月	新型コロナウイルス感染症研修（BCP）
10月	ノロウイルス・インフルエンザ予防対策
1月	衛生面・消毒方法の徹底 施設内環境整備

**構成員**

西迫初美 圓福るり子 丹羽涼 古屋明子 川越直美 横山恵美 大瀧亜希奈 白澤亮  
橋本啓太 鈴木裕 塩川匠 千葉京子 芦田美幸

**1、年間計画**

衛生対策の正しい知識の統一を徹底し、感染症の発生時には迅速に冷静な対応ができるよう連携を強化する。

**2、活動計画**

- ・ 3ヶ月に1回定例会議を実施し、時期に応じた課題について報告検討する。
- ・ 職員の衛生環境に対する手技を確認し、適宜見直し清潔な環境をつくる。
- ・ 手洗い・マスク・消毒・換気・検温の徹底を図る。
- ・ 持ち込みによる感染症の予防に努めるため、職員の体調管理や時期における感染情報の早期周知を徹底し、緊張感をもって取り組む。
- ・ 急な感染症が発生した場合、臨時に会議を実施し早期に対策を行う。
- ・ 感染者発生時におけるゾーニング等、シュミレーション研修を実施し、職員の知識理解を深める。

## 構成員

西迫哲 小林秀也 児玉涼輔 阪口百恵 三橋亮太 門倉千絵 橋本啓太 三浦徳生  
濱田雪乃 仲亀和子

### 1、目標

- 1、ヒヤリハットを多く記入することを啓発し事故再発防止へ活かす
- 2、毎月の事故データを分析し、事故防止に繋げる。
- 3、医務や、研修委員と連携し他セクションとも情報や知識を共有する。

### 2、活動計画

- 1、研修を通じ意識の向上、速やかに報告出来る様に再確認する。
- 2、毎月の事故報告の検証を行い再発防止に繋げる。
- 3、不適切な言葉掛けなどを見直し、ご利用者に寄り添った介護を行う。
- 4、事故防止、身体拘束、虐待、研修の実施。
- 5、ブルーオーシャンシステムを使用し、事故報告書の作成を行う。



## 構成員

西迫初美 丹羽涼 古屋明子 千葉京子 山口亜矢子 青山周作 高山龍治

### 1、目標

- 1、ヒヤリハットの原因を分析し職員間で共有をする事で事故を未然に防ぐ
- 2、「個人の尊重」「プライバシー」を守り、かつ安全で快適な生活を送ることができるよう検討し議論をする。
- 3、医務や研修委員と連携し全職員が知識や技術を身につけ、相互に高め合い、様々な視点からご利用者の生活の向上を目指す。

### 2、活動計画

- 1、職員間で事故・ヒヤリハットの要因を共有し速やかに報告できる環境をつくる。
- 2、毎月の事故集計データを各セクションで報告し、事故の再発防止へ活かす。
- 3、ヒヤリハットの記入を啓発する事で職員の意識向上に努める。
- 4、拘束ゼロの継続に向けて第三者の意見も取り入れ状況を把握する。
- 5、ブルーオーシャンシステムを活用し最新情報への更新の徹底と閲覧の意識付けを行う。
- 6、事故防止・拘束廃止・人権擁護に関わる研修の実施。